

## 健康生活支援課業務（感染症・生活衛生業務）における海匠保健所の取組について

海匠保健所 健康生活支援課

令和5年5月8日より新型コロナウイルス感染症が5類感染症となったため、これに伴い管内医療機関及び関係機関等が円滑に対応できるような取組を行った。

また、それ以外の課題についても取組を行った。

### 1 新型コロナウイルス感染症5類移行に向けた院長会議の開催

#### ○目的

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけについて、令和5年5月8日から5類感染症に位置づけることとなった。このことから、二次保健医療圏である香取海匠地域における新型コロナウイルス感染症における診療を取り巻く地域医療の課題や現状を共有し、特に今後の感染拡大時の救急医療や入院医療体制について、多くの医療機関で支え合う体制が構築できることを目的に開催した。

#### ○概要

対象者 香取海匠管内有床診療所、病院 院長等

開催日時・場所 令和5年3月20日（月）国保旭中央病院 本館3階しおさいホール

参加人数 集合開催にて、22 医療機関 45 名参加

#### ○内容

#### ① 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけ変更に伴う今後の対応について



【海匠保健所 健康生活支援課

説明資料より引用】

#### ② 救急医療体制維持のための医療連携について

【旭中央病院 救命救急センター長 高橋功医師】

#### ③ 5類移行後のコロナ診療について【旭中央病院 感染症科部長 中村朗医師】

取組ポイント：いざという時、顔の見える医療連携の維持

## 2 旭中央病院主催の新型コロナウイルス感染症に関する連携会議への参画

### ○目的

新型コロナウイルス感染症に関する最新情報や管内の発生状況等のほか、注意すべき感染症について関係機関へ情報提供し、地域全体で感染症の対応に備える。

### ○概要

旭中央病院が主催する「海匝地域新型コロナウイルス感染症ネットワーク（※）（二次医療圏内医師会、医療機関、訪問看護ステーション、介護事業所、市町役場、消防、教育委員会、社会福祉施設等が加入）向けの zoom 連携会議に継続的に参画し、情報提供した。

### ○内容

令和4年8月12日から令和5年6月29日までに計20回開催された中で、毎回約150名のzoom参加があり、旭中央病院からの情報提供のほか参加関係機関から情報発信があった。保健所からは、新型コロナに関する管内新規患者発生状況、療養期間の見直し、相談窓口案内、5類移行後の留意点のほかに、鳥インフルエンザ（H5N1, H7N9）や麻疹についての情報提供を行った。

ネットワークに入っている医療機関、医師会、消防、入所施設等関係機関との連携強化、タイムリーな情報提供、高齢者・障がい者及び児童入所・通所施設等の自主的な感染対策等につなげることができた。

※現在は、「香取海匝地区感染症・災害等連携会議」となっており、新感染症発生時、災害時等に情報発信ツールとして活用できる。事務局は旭中央病院。

取組ポイント：地域の情報共有ツールに、積極的に参画

## 3 鳥インフルエンザ対応マニュアルの改訂

### ○目的

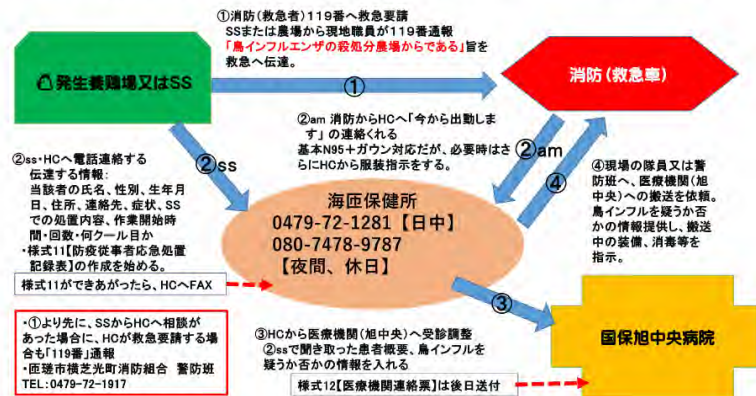
当保健所では、千葉県健康福祉部鳥インフルエンザ対応マニュアルをもとに、『海匝保健所における鳥インフルエンザ発生時対応マニュアル』を作成している。令和4年度のシーズンには、管内に養鶏場が多いこともあり、5養鶏場で高病原性鳥インフルエンザの発生があり、鶏等の殺処分の防疫措置がとられた。ところが、コロナ禍において、現地対策本部が設置されるサブステーション（以下、SS）に保健所職員が派遣されない場

合が想定されておらず、防疫作業従事者における傷病者発生の際に混乱が生じた。そのため、今後も関係機関との連携を円滑にする必要があることから、マニュアルを改訂することとした。

## ○改訂事項

- ① 防疫作業従事者が出入りする SS に保健所職員が派遣されない場合でも、防疫作業従事者のなかに傷病者が発生した際に、速やかに対象者が適切な医療を受けられるように、情報伝達の仕組みを SS に常駐している農林部職員等に掲示物で周知する。また、当保健所では管内消防本部及び予め調整した医療機関と図のような流れで情報伝達することとした。

### サブステーション(SS)での傷病対応(救急要請が必要な場合)



「海匠保健所における鳥インフルエンザ発生時対応について【R5.2.16改訂】」より引用(現在、再改訂中)

## ② 新型コロナウイルス感染症の出現に伴う要観察例発生時対応フローの見直し

当所では現在、要観察例の定義に該当するような対象者に対して、一律に感染症指定医療機関等へ受診勧奨するのではなく、保健所において COVID-19/インフルエンザ簡易抗原検査キットを利用してスクリーニング検査を実施し、感染症指定医療機関へ受診勧奨する対象者をトリージする仕組みで対応することに変更した。医療機関からは、負担が軽減されたとの反応があった。

※今年度 11 月 28 日(火)に、香取保健所と合同で、3 医療機関及び 2 消防本部の協力の下、ヒト鳥インフルエンザ(H5N1)感染疑い患者搬送訓練を実施予定としている。

改訂ポイント：傷病者発生時における保健所の連携調整の仕組み  
医療機関受診前の受診勧奨対象者のトリージ

## 4 健康危機管理研修「結核勉強会」の開催

### ○目的

全国的に結核の罹患率は減少傾向であるものの、結核新規登録者の内、外国籍患者の割合は増加傾向にある。また海匠管内では、畜産業や水産業事業所でベトナム・インドネシア・フィリピン等、東南アジアの結核高まん延国から技能実習生を受け入れていることが多い。以上より、監理団体及び技能実習生を雇用している事業主等を対象に、結核の知識を身に付け、技能実習生等が結核と診断された際に正しい行動につながり、感染拡大防止につなげるために開催した。

### ○概要

対象者 管内監理団体、外国人労働者雇い主、アジア系外国人留学生受入れ学校等

開催方法 令和5年9月28日から10月20日まで動画配信

参加人数 143名（動画配信アクセス数より）

### ○内容

講演①「技能実習生を受け入れる監理団体、事業主を対象とした結核に関する正しい知識の普及と感染拡大防止について」旭中央病院 感染症科部長 中村 朗医師

講演②「日本で結核と診断された外国人の支援について」公益財団法人結核予防会結核研究所臨床疫学部主任、入国前結核スクリーニング精度管理センター主任（併任） 李 祥任（りさんいん）氏

講演③「管内結核登録者の状況と保健所の結核業務について」 結核担当保健師

取組ポイント：外国人の結核対策で、受け入れ団体へアプローチ

## 5 犬猫の多頭飼育について

たくさんの犬や猫を飼育し、数が増えてしまった結果、経済的な理由や食事・排泄物等の世話が追いつかないなどの理由により、鳴き声や悪臭等による近隣住民への問題も発生し、ついには飼養継続不能に陥ることがある。このような事態を未然に防ぐため、千葉県では、動物の愛護及び管理に関する条例にもとづき、多頭飼養者に対して適切な飼養管理に関する助言等できるように、「飼養する犬猫が合わせて10頭以上」となった飼い主に「多頭飼養の届出」を義務づけており、管内の届出件数は8件程度ではあるが、保健所が把握できていない事例が少なくない。【別添 健康福祉部衛生指導課作成リーフレット参

照】特に、高齢者では飼養継続不能になるケースが多く、機会があれば啓発に努めている。

対策ポイント：多頭飼育には早期探知・早期介入